

令和5年度学校関係者評価委員会 議事録

学校法人常松学園札幌工科専門学校
学校関係者評価委員会

議題

令和5年度の実施状況報告と令和6年度の改善方針

- 開催日時 令和6年3月21日（木）10:00～11:00
- 場所 札幌工科専門学校 第1校舎 会議室
- 委員 <出席>
下原 英一 (株)イーエス総合研究所 取締役執行役員業務企画部長
(企業等委員)
嘉屋 幸浩 (株)園建 代表取締役 (企業等委員)
山口 修二 一般社団法人札幌建設業協会 専務理事兼事務局長 (業界関係者)
奥内 尚史 一般社団法人札幌造園協会 理事長 (業界関係者)
松本 勲 モエレ町内会員
三上 敬司 校長
大坂 道明 令和6年度土木系主任
岩瀬 聡 造園系主任
<オブザーバー>
伊藤 幸一 理事
<記録>
亀田 沙織 事務局 課長代理
<欠席>
古城 学 常松学園札幌工科専門学校同窓会長
常松 哲 理事長
- 資料 令和5年度後期 学校の取り組み状況に関する報告
令和5年度学校自己評価

※学校関係者評価委員会

文科省の示す「学校評価ガイドライン」に則り、下記の項目について全教職員による学校自己評価を実施している。学校関係者評価委員会は、その自己評価結果を評価し、自己評価結果の客観性・透明性を高めることや、専修学校と密接に関係する者の理解促進、連携協力による学校運営の改善を図ること等を目的として行う。

- | | | |
|---------------|---------|-----------|
| I 教育理念・目標 | II 学校運営 | III 教育活動 |
| IV 学修成果 | V 学生支援 | VI 教育環境 |
| VII 学生の受け入れ募集 | VIII 財務 | IX 法令等の遵守 |

令和5年度後期 学校の取り組み状況に関する報告

※グレー色は前回の内容

I 教育理念・目標

<令和5年度前期の報告>

1) 社会人マナーについて

遅刻・欠席を繰り返す学生が複数おり、連絡をしない無断欠席者もいる。一般学生のみならず企業委託生にも自覚が不足する者がいる。担任より本人への注意、加えて保護者や企業へも密に連絡し指導にあたっている。コロナの影響で高校時代にオンライン環境に慣れてしまっていたり、基本的な生活習慣が確立されていなかったりしている。社会の求める人材像を理解させるよう今後も継続して指導する。

2) 業務の効率化

イーエス総研に勤怠・経理システムが導入され、それに則って申請を行うようになった。学内の教務に関することは、前期中は特筆すべき改善は行われていない。IT化については後述する。

3) 学生の基礎学力

例年と同レベルの入学試験で入学生を選抜しているが、数学の平均点が低くなっている。

入学試験（数学Ⅰ・100点満点）の平均点（表-1） (点)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
全体	67.8	67.5	62.6	58.5
土木	71.1	75.6	62.3	56.2
造園	64.8	80.0	97.0	—
測量	66.8	64.1	63.7	62.3
施工	65.6	63.9	60.4	57.4

※令和6年度は11月までの試験結果

※不合格者も含む

※造園はAOや推薦入学が多いため一般受験のデータ数が少ない

新入学生学力試験（数学・100点満点）の平均点（表-2） (点)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
全体	33.1	37.5	33.8
土木	36.6	42.6	35.7
造園	39.9	44.1	47.2
測量	26.3	35.7	37.2
施工	28.3	32.7	24.3

委員の意見

（下原）社会人マナーについて、遅刻・欠席が目立つのは今までもそうなのか？今年が特にそうなのか？

（三上）例年もあったが、今年は特に多く見られる。

（下原）学力低下の原因は何だと思われるか？

（三上）4年制大学に進学する生徒が多く、そこから漏れた生徒が専門学校にきていると考える。給付奨学金の影響で、家庭困窮の生徒も専門学校ではなく大学に行けるようになった。

（下原）遅刻・欠席について、保護者や企業に連絡してどのような反応か？

（一色）18歳以上成人なのであまり連絡しないようにしてきたが、連絡することもある。保護者は、子どもに言っても聞かないから学校にお願いしますという反応。高校3年間のオンライン授業により、遅刻・欠席に対する罪悪感や自分が損をするという感覚が鈍っている。

（下原）ここで感覚を修正する必要がある。本人のためにならないし、他の学生へも負の影響がある。企業側も委託生の責任を果たすよう指導する。学校として対策する必要がある。

（下原）学力の低い学生が増えると、教員にも負担ではないか。

（三上）負担はあるが、入学させた以上は教育していく考え。

<令和5年度後期の報告と令和6年度の改善方針>

1 報告

- 自己評価による指摘

「④学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか
(学生や保護者に教育目標の意味を伝え、理解させているか)」 【評価 2.8】

入学の目的、目標及び学習意識、基礎学力の程度、社会性が多様な学生の受け入れに伴い、教育目標の達成に困難な事案が発生している。また、対応のために教職員の業務が増大しており、昨年のハラメント事案の一因になっていると考えている。

2 改善方針

- 入学前、入学ガイダンス、入学後指導時において本人、保護者、企業関係者と教育理念と教育目標を4者で共有し教育にあたる。
 - 各クラスに教育理念、教育目標に基づき教科、生活、進路指導を行える担任を配置し、学科指導部、就職・進路指導部、生活指導部による体制により指導を行う。
- ◎多様な学生と社会の要請に対し、令和7年度より新たな教育理念・目標とカリキュラム編成をおこなう。(後述)

委員の意見

(下原) 改善方針で、入学時のガイダンスは当たり前として、入学後から卒業までの学生の状況はどのように保護者に伝えているのか？

(三上) 何か起きたとき(遅刻欠席が多い、成績が悪い、授業にスマホを持ち込んだ等)には担任から保護者や企業担当者に電話をしている。

(下原) 昨今、学生の質は学校だけの責任ではないのではないかと。授業が始まったと同時に机に突っ伏して寝ている学生がいると聞く。そのような授業態度がマナーとして許されるのだろうか。学校の指導だけで解決するのは難しい。保護者や企業担当者へ密に情報を提供する必要がある。

(三上) 学生が欠席する場合は必ず担任や企業に連絡することになっているが、連絡をしない者もいる。企業委託生に関しては担任から密に連絡している。

II 学校運営

<令和5年度前期の報告>

1 報告

令和6年度入学生の合格状況(表-3)

11月13日現在

	応募総数	① 合格						② 不合格	③ 受験辞退・欠席	④ 合格辞退	入学
		一般	学校推薦	指定校推薦	社会人	企業委託	AO				
土木	11	7				2	9	1			

造園	7		2	3			1	6				
測量	15				2	9		11				
施工	21					16		16				
合計	54	7	2	3	2	27	1	42				

1) 学生数の確保

応募総数の昨年度同時期…土木 15、造園 5、測量 17、施工 22、合計 59

環境土木工学科の希望者が減少している。原因として、18歳人口の減少、大学進学者の増加、コロナ収束により夢・憧れ系学科への志望者回復、AO入試などによる受験早期化などが考えられる。測量科と施工管理科は引き続き企業委託生が定員以上に集まっている。現時点の見込みで、測量科は16名、施工管理科の土木コースは25名、造園コースにも1名から出願される予定。

2) 学校行事

9月に体育大会、10月には4年ぶりの学園祭を行うことができた。学生も教員も例年の様子がわからないため、各部門で課題はあったものの、地域住民や保護者、卒業生合わせて約250人が来校され盛況であった。

3) 業務効率化

教職員個人用のノートPCを購入した。Microsoft365を使用し、徐々に授業や教務のIT化を進めていく。構築については北海道オフィス・マシン様に助言いただいているところ。

4) 組織体制

令和5年度より校長の下に土木系主任、造園系主任を立てる組織体制とした。その効果については、もう少し時間をかけながら見極める必要がある。

委員の意見

(下原) 業務効率化、IT化をするというが、教員のIT教育は進んでいるのか？

(三上) これから北海道オフィス・マシンに依頼して講習してもらう予定である。

(古城) 優秀な学生を取りたいというが、面接もしているのか？

(三上) 数学・作文・面接を行っている。現在、本校の広報担当者が施策を考えている。成績優秀者には学費の一部免除をする案。クラス内にけん引する学生がいると全体の成績が上がってくる。

(古城) 入試の段階でインセンティブがあることで良い学生が集まり、正のスパイラルが生まれると考える。

<令和5年度後期の報告と令和6年度の改善方針>

1 報告

令和6年度入学生の合格状況(表-3)

3月15日現在

	応募総数	① 合格						② 不合格	③ 受験辞退・欠席	④ 合格辞退	入学
		一般	学校推薦	指定校推薦	社会人	企業委託	AO				
土木	15	12				2		14	1		1
造園	8		3	3	1		1	8			
測量	20				2	17		19			
施工	27					26		26	1		
合計	70	12	3	3	3	45	1	67	2		

・2年制の環境土木工学科(定員25名)、造園緑地科(定員15名)の入学者が定員(24/40名)となっており、企業委託による環境土木施工管理科(一年制 定員15名)、測量情報科

〈定員 15 名〉が定員を上回る状況である〈45/30 名〉。2 年制学科の運営の改善が急務となっている。

その中で、自己評価による指摘

「②学校運営は協働体制のもと、円滑に進められたか。 【評価 2.4】

⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか【評価 2.8】」

となっている。

2 改善

- すべての教職員に対し学校経営方針を伝え共通理解を図る。
 - 新年度より2名の常勤教員（造園緑地系 30 代・土木・測量系 20 代）が採用になり、すべてのクラスに担任の配属が可能になる。新入教員については今後 1 年間で教科、生活、進路指導及び業務の把握を行い、来年度以降業務の分担を可能にする計画である。
 - 常勤教員対象者の教科担当計画を立て、実行する。
 - 継続的に人事計画を行い、人材の確保を行う。
 - 業務の効率化のため全学生のノートパソコン購入と Microsoft365 の導入を予定しているが、安定的運用に時間がかかる可能性がある。
- ◎多様な学生と社会の要請および安定的な学校運営が行えることを目的とし、令和7年度より新たな教育理念・目標とカリキュラム編成をおこなう。（後述）

委員の意見

（下原）前回カリキュラム編成について提案したので、次年度に向けてよろしくお願いします。

（三上）教員もできるところ・できないところがあるので、イーエス顧問にもご協力をいただきながら組み立てたい。

Ⅲ 教育活動

〈令和5年度前期の報告〉

1) 教員

教育活動の中で、学生へのハラスメントにより専任教員 1 名が 6 月に関連会社に出向、非常勤講師 1 名を 10 月に諭旨解雇とした。そのため非常勤講師 4 名を採用し、所定の教育課程を実施している。ハラスメント防止や暴力返上に向けて、教員の自覚と研修の在り方が問われそうだ。

また、造園緑地科の教員 1 名が契約満了のため退職した。

令和 6 年度には土木系 1 名、造園系 1 名を採用予定である。教員としての自覚を持ち、責任をもって学生指導にあたる人材に育成していかなければならない。

2) 学校行事

Ⅱ 学校運営 2) に記載

3) 定期試験・再試験

再試験の方法を変更し、前期 2 回の定期試験が終了した。再々試験を廃止し、再試験の前に指導期間を設けたことで、学生の緊張感の高まりと学習効果の向上も見られたと考える。再試験の形骸化と再試験事務の負担軽減にもなった。ただし、再試験が 1 度のため、教員側が不合格をつけにくくなり、成績評価が甘くなる面も感じた。前期では、再試験の不合格が土木 1 年に 12 件（社会科学）、土木施工管理科に 1 件（構造力学）ある。学生 1 人につき不合格教科が 6 教科以上になれば留年と定めている。

委員の意見

(山口) 非常勤講師の解雇もハラスメントか？

(三上) 暴力によるハラスメントがあった。

(古城) 学力不振での留年も実績としてあるのか？

(三上) 昨年度あった。測定の課題が提出されず、指導を重ねたが学生が約束を違えたため留年とし、結果的に退学した。

(下原) 学生の教育を受ける姿勢の低下が、教員のハラスメントが起きたことにも繋がるのかはわからないが、良くない状態になっている。先生の人数と年齢、体力も勘案し、学校の根本的なところから見直すことも必要ではないか。

(一色) 参考エピソードとして。寝坊で登校しない学生を担当が下宿まで迎えに行っても、すぐ学校に来るよりも朝シャンが優先。クラスで上位の成績を取るような学生でもそのような感覚である。話して聞かせるしかないが、本人は遅刻したくらいで学校に何の迷惑をかけるのかわからないという。

(下原) 学生が変化中、学校はどうしていくのか？

(三上) カリキュラムについては見直しも検討する。

(下原) 教員不足の対応案として、土木・造園の共通科目を一緒にするのはどうか？効率を考えていくことが必要。

(三上) 現在も共通科目は合同授業を行っている。

(古城) 学生は自身のマナーについて問題意識がないのか？就職に影響しないのか？

(三上) 公務員就職には成績証明書や内申書は求められない。

(古城) 就職に影響しないのであれば、学生の意識が薄くなるのは願ける。

<令和5年度後期の報告と令和6年度の改善方針>

1 報告

- ・専任教員 1 名、非常勤教員 1 名の退職の中、非常勤講師 4 名が授業対応を行った。
- ・自己評価による指摘

「②今年度の教育課程編成は、適切・効果的であったか

(教育課程を動かすために必要な人材や教材を編成しているか) 【評価 2.6】

⑭学生へのマナー指導や社会性を身に付けさせる指導は適切に行われ、満足する状況にあるか(将来、学校の中核を担う若手教員を確保し、その育成に努めているか)

【評価 2.6】

⑲人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。

【評価 2.5】

2 改善

- ・新年度 土木系教員 1 名(20代)、造園緑地系教員 1 名(30代)が新しく入職する予定である。また、本年度途中で入っていただいた非常勤教員 3 名が継続し、授業を担当する体制で活動をおこなう。

このことから、各クラスに教育理念、教育目標に基づき教科、生活、進路指導を行える担任を配置でき学科指導部、就職・進路指導部、生活指導部による体制により指導を行う。

◎多様な学生と社会の要請および学校の安定的運営を目的とし、令和7年度より新たな教育理念・目標とカリキュラム編成をおこなう。(後述)

委員の意見

(下原) 多様な学生とは具体的にどのような学生か。

(三上) 人と付き合うことを苦手とする学生が増えたように感じる。コロナ禍で育ってきたからか、かなり粘り強く指導してもなかなか成果が上がらない者がいる。

IV 学修成果

<令和5年度前期の報告>

1 退学及び休学者

[退学]

- 環境土木工学科1年 1名(進路変更)
- 造園緑地科1年 1名(就職)
- 環境土木・造園施工管理科 1名(家庭事情)

[休学]

なし

2 資格取得及び就職状況

[資格]

- ・2級造園技能士(学科) 6/6名合格(100%)
- ・2級造園技能士(実技) 6/7名合格(86%)
- ・2級造園技能士(学科のみ受験) 1/1名合格(100%) ※高校で3級合格済み
- ・2級造園芸装飾技能士(学科+実技) 4/4名合格(100%)
- ・3級造園技能士 8/8名合格(100%)
- ・3級造園芸装飾技能士 9/9名合格(100%)
- ・2級土木施工管理技士(1次) 前期 1/2名合格(50%)
後期 46名受験
- ・2級造園施工管理技士(1次) 後期 9名受験
- ・2級管工事施工管理技士(1次) 後期 3名受験
- ・2級ピオトップ施工管理士 7名受験
- ・2級ピオトップ計画管理士 1名受験
- ・生物分類技能検定3級 4/6名合格(67%)
- ・測量士補 2/2名合格(100%) ※測量科、造園2年
- ・技術士補 森林部門 2名受験予定

[就職]

学生の就職希望状況(表-4)

(人)

学 科	学生数	うち、 企業委託	うち、民間企業 (委託生含む)	うち、 公務員	就職を 希望しない
環境土木工学科2年	17	4	8	9	0
造園緑地科2年	8	0	4	4	0
測量情報科	21	21	21	0	0
環境土木・造園施工管理 科	23	21	22	1	0

- ・国家公務員(一般・大卒・土木) 最終合格 2名(開発局2)
- ・ // (一般・大卒・林学) 最終合格 3名(林野庁2、運輸局1)
- ・ // (一般・高卒・技術北海道) 最終合格 4名
- ・ // (一般・高卒・林業) 受験者なし
- ・北海道職員(農業土木A) 最終合格 1名
- ・ // (総合土木B) 最終合格 1名
- ・ // (企業局B) 最終合格 1名
- ・ // (林業B) 受験者なし

・兵庫県職員（社会人・林学）	最終合格	1名
・富山県職員（大卒・林業）	最終合格	1名
・中標津町（土木）	最終合格	1名
・別海町（土木）	最終合格	1名
・民間企業 環境土木工学科 内定	5名（東海建設、松本組、堀松建設工業、鈴木東建、西江建設）	
造園緑地科 内定	3名（コクサク、塚本造園土木、横山造園）	
環境土木・造園施工管理科 内定	0名	
・企業委託生	47名	

委員の意見

（下原）測量士補の資格は、土木と測量の学生は全員受かって卒業していくのか？
（三上）校内学力試験に合格しないと卒業できない規程としている。近年は全員受かっている。
（下原）そのような厳しさ、自分を奮い立たせるような仕組みが必要。
（古城）入口を狭められないなら、出口を厳しくするやり方もあるのでは。社会人の考え方を学校にそのまま適用するのは難しいが、それでもギャップを埋めていかなければ。
（下原）わからない所を先生に個別に聞きに来る学生であれば先生も応援したいと思えるが、そういう学生ばかりではない様子。
（三上）わからないことを聞きに来たとしても試験直前である。学生を残して指導しようとしても、成績不振の学生ほど早く帰ることを優先する。

<令和5年度後期の報告と令和6年度の改善方針>

1 報告

1) 退学及び休学者

[退学]

環境土木工学科1年 1名（進路変更）

造園緑地科1年 1名（就職）

環境土木・造園施工管理科 1名（家庭事情）

[休学]

なし

2) 資格取得及び就職状況

[資格]

・2級造園技能士（学科）	6/6名合格（100%）	
（実技）	6/7名合格（86%）	
・2級造園技能士（学科のみ受験）	1/1名合格（100%）	※高校で3級合格済み
・2級園芸装飾技能士（学科+実技）	4/4名合格（100%）	
・3級造園技能士	8/8名合格（100%）	
・3級園芸装飾技能士	9/9名合格（100%）	
・2級土木施工管理技士（1次）	前期 1/2名合格（50%）	
	後期 40/44名（91%）	
・2級造園施工管理技士（1次）	後期 7/9名合格（78%）	
・2級管工事施工管理技士（1次）	後期 0/3名合格（0%）	
・2級ビオトープ施工管理士	4/7名合格（57%）	
・2級ビオトープ計画管理士	1/1名合格（100%）	
・生物分類技能検定3級	4/6名合格（67%）	

- ・測量士補 2/2名合格(100%) ※測量科、造園2年
- ・技術士補 森林部門 0/2名合格(0%)

[就職]

学生の就職希望状況(表-4)

(人)

学 科	学生数	うち、 企業委託	うち、民間企業 (委託生含む)	うち、 公務員	就職を 希望しない
環境土木工学科2年	17	4	10	7	0
造園緑地科2年	8	0	4	4	0
測量情報科	21	21	21	0	0
環境土木・造園施工 管理科	23	21	22	1	0

- ・国家公務員(一般・大卒・土木) 最終合格 2名(開発局2)
- ・ // (一般・大卒・林学) 最終合格 3名(林野庁2、運輸局1)
- ・ // (一般・高卒・技術北海道) 最終合格 4名
- ・ // (一般・高卒・林業) 受験者なし
- ・北海道職員(農業土木A) 最終合格 1名
- ・ // (総合土木B) 最終合格 1名
- ・ // (企業局B) 最終合格 1名
- ・ // (林業B) 受験者なし
- ・兵庫県職員(社会人・林学) 最終合格 1名
- ・富山県職員(大卒・林業) 最終合格 1名
- ・中標津町(土木) 最終合格 1名
- ・別海町(土木) 最終合格 1名
- ・遠別町(土木) 最終合格 1名
- ・兵庫県赤穂市(土木) 最終合格 1名
- ・兵庫県市川町(土木) 最終合格 1名
- ・兵庫県稲美町(土木) 最終合格 1名
- ・民間企業
 - 環境土木工学科 内定8名 東海建設、松本組、堀松建設工業、岩田地崎建設、鈴木東建、西江建設、機械開発北旺、札幌工科専門学校
 - 造園緑地科 内定4名 コクサク、塚本造園土木、横山造園、グリーンディスプレイ
 - 環境土木・造園施工管理科 内定1名 西岡国昭和建設
- ・企業委託生 47名

3) 自己評価による指摘

「②今年度の教育課程編成は、適切・効果的であったか

(教育課程を動かすために必要な人材や教材を編成しているか) 【評価 2.6】

⑭学生へのマナー指導や社会性を身に付けさせる指導は適切に行われ、満足する状況にあるか

【評価 2.6】

⑰人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

(将来、学校の中核を担う若手教員を確保し、その育成に努めているか)」

【評価 2.5】

2 改善

- ・新年度より2名の常勤教員（造園緑地系 30代・土木・測量系 20代）が採用になり、すべてのクラスに担任の配属が可能になる。新入教員については今後1年間で教科、生活、進路指導及び業務の把握を行い、来年度以降業務の分担を可能にする計画にしている。
- ・常勤教員対象者の教科担当計画を立て、実行する。
- ・継続的に人事計画を行い、人材の確保を行う。

委員の意見

(下原) 資格で、測量士補について測量情報科は卒業と同時に得られるのではないのか？

(三上) 卒業と同時に得られるが、1名試験の受験を希望した学生がいた。

(松本) 試験で合格した者も、本校を卒業すれば、申請のみで測量士になれるのか？

(三上) その通りである。本人もそのことを理解した上で、自分の力を試すために受験したようだ。

V 学生支援

<令和5年度前期の報告>

1) 経済的支援

①「学校独自の授業料免除制度」「国の修学支援新制度（給付奨学金＋入学金・授業料免除）」、「専門実践教育訓練給付金（社会人）」、「長期高度人材育成コース（社会人）」が利用できる。

「本校独自の授業料免除制度」・・・83/95名の学生が学費免除を受けている。

「国の修学支援新制度」・・・環境土木工学科6名、造園緑地科2名が利用中。現在は住民税非課税世帯とそれに準ずる世帯が対象だが、令和6年度より多子世帯と理工農系学科に通う学生にも拡充される。文科省発表「理工農系学部学科の対象機関リスト（令和5年10月12日）」に本校4学科とも記載されている。

「専門実践教育訓練給付金」・・・造園緑地科3名が利用中。

「長期高度人材育成コース」・・・該当者なし。

②委託生を入学させる企業は、引き続き厚生労働省の「人材開発支援助成金」が利用できる。各企業は新設された最も助成率の高い「事業展開等リスクリング支援コース」で申請されたと聞いている。例年通り、学年末に学生個々の出欠状況をまとめて報告し、助成金支給申請に使用していただく予定。

③日本学生支援機構奨学金の利用状況（表-5） (人)

	1種	2種	1種+2種併用	給付
土木	4	6	2	6
造園	2	1		2
施工		1		

2) 生活・健康・安全支援

①学事課から本校事務局にメールで各種啓発資料が届く。内容は薬物乱用防止、ギャンブル防止、消費者被害防止、自転車盗難防止、デートDV防止など。学生にはその都度、slackで資料を配信し、公的な相談窓口について周

知っている。

②毎年10・11月頃、学校で全学生にインフルエンザワクチン接種を行い、集団で感染予防対策を実施している。ただし、アレルギーや強い副反応を持つ学生は除く。

委員の意見

(下原) 本校独自の授業料免除はいくらくらいか？

(亀田) 年額10万円程度免除されている学生が多い。高校の成績、資格取得、卒業生の推薦、保護者の年収、社会人入学者に割引をしている。企業委託生は年額10万円免除している。

<令和5年度後期の報告と令和6年度の改善方針>

改善

- ・新年度より2名の常勤教員（造園緑地系30代・土木・測量系20代）が採用になり、すべてのクラスに担任の配属が可能になる。このことにより、密度の高い学生支援が行える体制にできる。
- ・国の修学支援新制度の拡充が始まる。

委員の意見

特になし

VI 教育環境

<令和5年度前期の報告>

1) IT環境

学内のWi-Fi環境を整備した。現在、教職員用のノートPC13台（内6台はCADソフトに対応できるスペック）を購入し、Microsoft365のセットアップをしているところ。今後、アプリケーション使用方法の講習やファイルの共有・管理のルール設定など、システム構築を進めていく。

2) 教室の設備 プロジェクター

各教室に設置しているプロジェクターが老朽化しており、スライドの文字が小さいと不鮮明で見えないとの声があった。現在、3-2教室では新しめのプロジェクター（イーエス総研より借用）を使用しているほか、少人数のクラスではデスクトップのモニターに映している。令和6年度より学生にノートPC必携させることから、手で鮮明に見ることができるほか、紙の教科書やプリント印刷の削減に繋がると考える。

3) 教室の設備 エアコン

今年は異例の猛暑で夏季集中授業への支障が大きかった。エアコンを設置している教室が3-2教室（最大90人）、情報処理室（最大28人）、図化室（8人程度）の3部屋しかない。北海道職員の技術研修のため情報処理室が使えず、エアコンのない教室での授業を余儀なくされるクラスがあった。学事課からエアコンの設置状況についての調査があり、行政も動く様子がある。来年度はイーエス総研が新社屋を建てるので、猛暑の場合には旧社屋を教室としてお借りできるとの話をいただいている。

4) 教室の配置

学生数の増加に伴い教室が不足しており、4-1教室を測量情報科のホームルームおよび合同教室として使用している。人の出入りが多いので私物の管理、コロナ感染、他の授業をしているためホームルーム教室に戻れないなどの気苦労がある。土木実験については、今年度も2班に分けて実施している。

5) 森林実習地

国有林を学校林「遊々の森」として森林実習で利用している。イーエス総研が所有する当別の森林を利用させていただき、森林計画・管理の授業に役立てる。

6) 物品整理

古いパソコンや実験器具、図書や雑誌などが多数保管しており、施設をひっ迫させている面がある。必要性を見極め、整理整頓していきたい。

委員の意見

(山口) エアコンのない教室への設置はしないのか？
(三上) 今のところ新設は考えず、イーエス総研の旧社屋を利用させてもらう予定。旧社屋の Wi-Fi 整備とエアコンの新設、どちらの方が費用を抑えられるか比較する。

<令和5年度後期の報告と令和6年度の改善方針>

1 報告

・自己評価による指摘

- ①教室・実験室等の規模や配置は適切であったか 【評価 2.6】
- ③実験実習設備、機械類の整備・活用は適切であったか 【評価 2.5】
- ④蔵書を含めて図書閲覧のニーズに応えられていたか 【評価 2.6】
- ⑤情報機器の充実及び活用状況は適切であったか 【評価 2.7】

2 改善

- ・経営計画に基づき多様な学生と社会の要請および安定的な学校運営が行えることを目的とし、令和7年度より新たな教育理念・目標とカリキュラム編成をおこなうことに伴い、教育環境の調整を行う。

委員の意見

(三上) 1級施工管理の受験資格改正に対応するカリキュラム編成を行っていく考えである。
(山口) カリキュラムの変更は令和7年度なのか？
(三上) 1年遅れにはなるが、十分時間をかけて練った上で編成したい。
(岩瀬) 現在も一部選択制にしており、その中で1級対応は行っている。令和7年度からは学校として1級対応に取り組む。
(松本) 1年制の施工管理科でも7月に1級土木を受験するのか？1年制なので土木全般を学ぶことを目的とし、2級受験とするのか？2級で企業は満足するのか？企業側のニーズを捕まえておく必要がある。
(三上) いくつかの企業からは最低限2級、できれば1級という考えを伺った。
(大坂) 工業・農業高校出身者はできれば1級、1年制については最低限全員2級を合格させ、11月以降は卒業後の1級受験に向けてフォローをする方針。今後、企業委託生についても2年制への入学を勧めたい。

Ⅶ 学生の受け入れ募集

<令和5年度前期の報告>

(表-6)

2023年11月15現在

学科\入学年度		H31	R2	R3	R4	R5	R6
環境土木 工学科	体験参加数	37	23	34	22	31	14
	出願数	33	19	23	19	23	11
	入学数/定員	23/25名	15/25名	21/25名	17/25名	19/25名	
	定員充足率	92%	60%	84%	68%	76%	
	委託生の割合	4/23名 17.4%	2/15名 13.3%	0/21名 0%	4/17名 23.5%	2/19名 10.5%	
造園緑地科	体験参加数	8	12	26	13	12	15
	出願数	5	2	18	9	9	7
	入学数/定員	5/20名	2/20名	17/15名	8/15名	9/15名	
	定員充足率	25%	10%	113%	53.3%	60%	
	委託生の割合	0/5名 0%	0/2名 0%	0/17名 0%	0/8名 0%	0/9名 0%	
測量情報科	体験参加数	17	10	11	13	18	11
	出願数	15	15	16	20	22	15
	入学数/定員	14/10名	15/10名	15/15名	18/15名	21/15名	
	定員充足率	140%	150%	100%	120%	140%	
	委託生の割合	13/14名 92.9%	15/15名 100%	15/15名 100%	16/18名 88.9%	21/21名 100%	
環境土木・ 造園施工 管理科	体験参加数	8	19	5	8	17	17
	出願数	20	33	21	23	24	21
	入学数/定員	18/10名	30/10名	20/15名	22/15名	24/15名	
	定員充足率	180%	300%	133%	146.7%	160%	
	委託生の割合	16/18名 88.9%	30/30名 100%	17/20名 85%	22/22名 100%	22/24名 91.7%	
全 体	体験参加数	70	64	65	56	78	57
	出願数	73	69	78	71	78	54
	入学数/定員	60/65名	62/65名	73/70名	65/70名	73/70名	
	定員充足率	92.3%	95.4%	104.3%	92.9%	104.3%	
	委託生の割合	33/60名 55%	47/62名 75.8%	32/73名 43.8%	42/65名 64.6%	45/73名 61.6%	

※参加者のうち出願可能の人数

1) 学生募集

各種WEB進学媒体(スタディサプリ、マイナビ、みん校など)に掲載しているほか、入学相談員が進学相談会や高校訪問でPRしている。資料請求時に希望分野が登録されている方には、通常の資料発送の後さらに関連資料を送り、本校のことを印象付けるようにしている。体験入学の参加者で出願のない者には、改めて手紙を送っている。

2) ホームページ

お知らせには公務員や資格の最新合格状況を、ブログにて学生インタビューを多数公開している。

3) SNS

公式LINEで個別の質問事項に対応している。Xやインスタグラムは開設していない。

4) 入試制度

一般、社会人、企業委託生、造園緑地科のみAO・学校推薦・指定校推薦の入試制度で実施している。入学者の質を向上させる目的で、2年制学科に特別コースの設定を検討している。高校の偏差値、本人の成績により基準を設け、学費の一部を免除する想定である。本校が選定した高校から1名ずつでも毎年学生が来るようになれば定員も安定すると考えている。公務員の大卒区分や1級施工管理技士1次合格の実績に繋げ、本校の広告塔とする狙いがある。

委員の意見

(下原) 入学相談員が高校訪問をした結果、高校や高校生の現状などの情報提示をいただければ嬉しい。

(三上) 次回の委員会で用意したい。

<令和5年度後期の報告と令和6年度の改善方針>

1 報告

(表-6)

2023年11月15現在

学科\入学年度		H31	R2	R3	R4	R5	R6
環境土木 工学科	体験参加数	37	23	34	22	31	17
	出願数	33	19	23	19	23	15
	入学数/定員	23/25名	15/25名	21/25名	17/25名	19/25名	
	定員充足率	92%	60%	84%	68%	76%	
	委託生の割合	4/23名 17.4%	2/15名 13.3%	0/21名 0%	4/17名 23.5%	2/19名 10.5%	
造園緑地科	体験参加数	8	12	26	13	12	16
	出願数	5	2	18	9	9	8
	入学数/定員	5/20名	2/20名	17/15名	8/15名	9/15名	
	定員充足率	25%	10%	113%	53.3%	60%	
	委託生の割合	0/5名 0%	0/2名 0%	0/17名 0%	0/8名 0%	0/9名 0%	
測量情報科	体験参加数	17	10	11	13	18	15
	出願数	15	15	16	20	22	20
	入学数/定員	14/10名	15/10名	15/15名	18/15名	21/15名	
	定員充足率	140%	150%	100%	120%	140%	
	委託生の割合	13/14名 92.9%	15/15名 100%	15/15名 100%	16/18名 88.9%	21/21名 100%	
環境土木・ 造園施工 管理科	体験参加数	8	19	5	8	17	17
	出願数	20	33	21	23	24	27
	入学数/定員	18/10名	30/10名	20/15名	22/15名	24/15名	
	定員充足率	180%	300%	133%	146.7%	160%	
	委託生の割合	16/18名 88.9%	30/30名 100%	17/20名 85%	22/22名 100%	22/24名 91.7%	
全 体	体験参加数	70	64	65	56	78	65
	出願数	73	69	78	71	78	70
	入学数/定員	60/65名	62/65名	73/70名	65/70名	73/70名	
	定員充足率	92.3%	95.4%	104.3%	92.9%	104.3%	
	委託生の割合	33/60名 55%	47/62名 75.8%	32/73名 43.8%	42/65名 64.6%	45/73名 61.6%	

※参加者のうち出願可能の人数

2 改善

- ・経営計画に基づき多様な学生と社会の要請および安定的な学校運営が行えることを目的とし、令和7年度より新たな教育理念・目標とカリキュラム編成をおこなうことに伴い、入学選考の対応を行う。(後述)。
- ・特別指定校推薦制度を設け、意欲と基礎学力の高い学生を集める。成績により授業料を一部免除する。
- ・本校OBによる紹介での入学者を増やすため、インセンティブ付きの紹介制度を設ける。

委員の意見

(下原) 特別コースと普通コースの学生を入れて、同じクラス編成でやるのか？

(三上) クラスに精神的に大人で優秀な学生がいることにより、クラス全体の学力が上がっていく例があるので期待できる。

(下原) 授業内容のレベル、バランスを考えなくてはならない面が出てくるのでは。

(山口) 特別コースと普通コースで受ける授業は同じになるのか？

(三上) 基本的には一緒だが、2年生になってからコースに分けて指導を行う。

VIII 財務

<令和5年度前期の報告>

1) 入学生の確保

募集状況は前述の通り。企業委託生が依然として好調であるが、環境土木・造園緑地科造園コースの希望者は現在1名である。造園コースの内容PRが不足している。

2) 教職員の協働

前述の通り。

委員の意見

(下原) 学校経営には学生募集が大事であるが、教員確保やIT整備にかかる経費、どちらを優先するのか難しいところだと思う。カリキュラム、先生の数等を勘案して、根本的に見直す時期が来ていると思う。

<令和5年度後期の報告と令和6年度の改善方針>

- ・2年制の入学者が定員を満たしておらず、財務上厳しいものがある。
- ・経営計画に基づき多様な学生と社会の要請および安定的な学校運営が行えることを目的とし、令和7年度より新たな教育理念・目標とカリキュラム編成をおこなうことに伴い、教育環境の調整さらに入学選考の対応を行う。(後述)
- ・本校独自の授業料免除制度を見直す。

委員の意見

(三上) 企業委託生の10万円免除は令和7年度から撤廃をお願いする。その分、2年制特別コースの授業料免除を充実させ、募集に力を入れたい。

IX 法令等の遵守

<令和5年度前期の報告>

1) カリキュラムの履行

時間割や担当者の変更はあったが、所定のカリキュラムを履行中である。

2) 交通安全

森林実習や測量実習で車移動をする場合にはレク保険をかけている。運転前にはアルコールチェックを実施し、事故や違反はない。

3) 勤怠管理システム

イーエス総研に準じて勤怠システムにて管理されている。申請がやや煩雑に感じるが、徐々に操作に慣れてきている。

4) 情報公開

職業実践専門課程や高等教育の修学支援新制度の対象校として認定を受けるため、必要とされる情報をホームページで公開している。

5) ハラスメント

学生へのハラスメントという遺憾な行為があり、処分は前述の通りとした。再発防止対策として、教職員にアンガーマネジメント研修(11/20予定)、学生には定期的にアンケートを実施する。

委員の意見

(下原) ここには当てはまらないが…教員は外部研修などを行っているのか？
(三上) 北専各連主催で8月と12月に教育研修がある。
(下原) 全員受講するのか？同じ先生ばかり受けていることはないか？
(三上) 平日にあるので受講できるのはその日に授業のない教員になってしまう。
(下原) 各種研修が対面とオンラインのハイブリッド型になってきている。外の情報を早めに入れることが必要。
(伊藤) 時代の変化とともに子供の資質が変わっている。今まで通りのやり方では通じないことを教員も自覚しなければならない。システム自体の、カリキュラム数、指導の到達レベルを見直すことも求める。これまで広報としては「資格合格率100%」を強く打ち出してきたが、必ずしも100%を目指す必要はなくなってきたのではないか。やらない学生に対してそこまでかける必要があるのか。ドライな面も必要となる。学校が継続していくためには収入も安定しなければならない。企業委託生の学費免除も含め学校独自の学費免除制度を見直すことも、各企業の皆様にご理解いただきたい。

<令和5年度後期の報告と令和6年度の改善方針>

- ・教員によるハラスメントおよび暴力行為が発生した。アンガーマネジメントや教育研修などを適切におこなうとともに、教職員の確保、学生の確保を行い安定的運営のもと、学校教育理念に基づき教育目標を達成できる職場環境を構築する必要がある。
- 令和7年度入学生より経営計画に基づき多様な学生と社会の要請および安定的な学校運営が行えることを目的とし、令和7年度より新たな教育理念・目標とカリキュラム編成をおこなうことに伴い、教育環境の調整を行う。(別紙)

委員の意見

特になし